

小学生にもできる国際貢献

- ネパールの小学校との交流を通して -

半田市立亀崎小学校 6年担任 丹波信夫

キーワード：ネパール，国際貢献，ボランティア

1 はじめに

現在、我々は豊かな文明社会の恩恵にあずかり、インターネットの普及に代表される IT 社会を向かえようとしている。本校では校内 LAN が整備されインターネットを日常的に学習に活用している。

しかし、ネパールの山間地には貧しい村が多い。小学校には電気も通っておらず、満足な学習環境が整っていない。そこには同じ小学生でありながらインターネット環境どころか文房具にも不自由している子どもたちがいる。

日本の小学生はネパールについての知識はほとんどなく、ましてやその同年代の小学生がどのような生活をしているのか、どのような学校生活をおくっているのかをまったく知らない。また、自分達が国際的に貢献できるとは考えてもいない。

そこで、ネパールの人々、子どもたちと交流を持つことによりお互いに理解しあい、同じ地球人としての自覚を持つことができるのではないかと考えた。

ネパールの小学生においては、日本の小学校と交流するためのインターネット環境が整備されるとともに、日本の子どもたちと交流する中で新しい学習の方法を得るものとする。

日本の小学生においては、ネパールの小学校に対して自分達にもできることを考え実行することにより小学生でも国際貢献できる自信と達成感を味わわせることができると考える。

また、交流するためにコミュニケーション能力を自ら磨き上げていこうとするものとする。

2 実践の内容

2.1 対象

小学校6年生 3クラス(96名)総合学習 国際理解教育の時間

2.2 目標

- ・ネパールの子どもたちとの交流を通してネパールについて知り、自分たちにもできる国際貢献について考え実行することができる。
- ・ネパールの人々や子どもたちと交流を持つことにより同じ地球人としての自覚を持つ。
- ・交流するためにコミュニケーション能力を進んで磨き上げようとする。
- ・ネパールを理解し自分達でも国際貢献をすることができたという自信を持つことにより、他のアジアの国々についても進んで理解しようとする。

2.3 実践

2.3.1 ネパールについて知ろう

6月にネパールの現地を訪れた人やネパールに詳しい人の話を聞いたり、写真などの資料を見せてもらったりした。そして、図書資料やオンライン資料等によりネパールについて調べてまとめる活動をおこなった。

ネパールについて詳しい人の話を聞いて、子どもたちは驚きの連続であったが、人々が一生懸命に生きている様子は伝わった。その後、ネパールに関して子どもたちが調べたテーマは国家的なことから生活にかかわることまでさまざまなものがあつた。調べた事をお互いに発表していく中でネパールを支援しようという機運が盛り上がってきた。

2.3.2 ネパールの小学校支援宣言！

子どもたちが集めた文房具は大きなダンボール2箱になった。

8月、この文房具と中古パソコンを持って6年生の担任3人がネパールを訪問した。ネパールの首都カトマンズから1時間飛行機に乗り、さらに2日間ヒマラヤの山を歩いて、山間僻地ラクチュン村に到着した。ラクチュン村の小学校でみんなが集めた文房具を手渡した。村をあげての子どもたちへの歓迎のメッセージをもらい、今後の交流を誓い合った。

また、臨時に日本語の授業を行い、明るいラクチュの子どもの笑顔も見ることができた。



図1.集めた文房具の梱包

さらに、ラクチュン村からカトマンズに戻り、ホーリーガードン・スクールを訪問した。ここでは中古のノートパソコンを贈呈してインターネットでの交流を約束した。また、9月にはキラン校長先生と小学生2名の来日の打ち合わせを行った。

2.3.3 ネパールの友達

9月16日、ネパールよりキラン校長先生と4年生のルジナさん、5年生のスザナさんの小学生2名が来日した。3人はホームステイをしながら2週間、亀崎小学校に通った。ネパールの小学生2名は6年生のクラスに入り同じように授業を受けた。最初は双方とも緊張していたようであったがすぐにフレンドリーになり、いろいろな方法でコミュニケーションを取り合い遊んでいた。

また、児童主催でお互いの文化を紹介し合う「文化交流会」を開催した。日本からは、「祭囃子」「柔道」「日本舞踊」を披露した。ネパールからは「ネパリダンス」の披露があった。

キラン校長先生には、簡単な「ネパール語会話」の授業をしていただいた。さらに、多くの児童の心を打った「ストリートチルドレンについてのスピーチ」もしていただいた。

2週間がたちお別れの日、涙ぐみながらのさよならとなった。

児童の感想の一部

私はスザナとルジナと会えてとてもよかったです。生活習慣がちがう2人からいろいろなことを学びました。コミュニケーションの仕方や人を思いやるやさしい心も学びました。お別れの日はとてもつらかったです。



図2. 楽しく交流



図3. 授業の様子

2.3.4 友情の輪をひろげよう！

校内学習発表会では「ネパール展」を開き、全校児童・地域の人たちにネパールを紹介した。

その内容は「ネパールについて調べたこと」「ネパール語講座」「ネパール風フルーツの食べ方」「ネパリダンス実演」「ネパリ民謡ロツソンプリリ実演」「ストリートチルドレンについて」である。また、地域の方々にストリートチルドレンの実態を訴え、多くの支援金を集めることができた。

3 成果と今後の課題

ネパールという国が子どもたちにとってとても身近な友だちの国になった。

ネパールの小学校に対して自分達にもできることを考え実行することにより小学生でも国際貢献できる自信と達成感を味わわせることができた。さらに、ストリートチルドレンについて調べた事をプレゼンテーションをおこなうことにより、ネパール支援の輪を学年から全校へさらに地域へと広げることができた。

また、交流するためにコミュニケーション能力を自ら磨き上げていこうとする態度をも見ることができた。

ネパールの子も子どもたちも日本の子も子どもたちと交流する中で新しい学習の方法を得たものと思う。

今後においては、今回友好関係を確立したネパールの交流校とフェースツウフェースの交流を定期的に行えるシステムを作りたいと考えている。



図4. ネパリダンスの実演



図5. 文房具を贈呈